

## 技術力と産学官連携によって顧客ニーズに対応 継続的な改善提案によって生産性を向上

二十世紀梨に使用する果実袋を製造販売。代表者がJA全農鳥取で30年間果実袋(梨用)の製造に携わっていた経験を活かし、鳥取県園芸試験場と政府系果実研究所の協力を得て「病虫害対策」「食品安全性」「作業性」に優れた自社オリジナル梨袋を開発。主に県内外のJA、個人農家に製造販売を行っている。選果場や梨生産者宅を訪問して生の声を聞き、ニーズに柔軟に対応した商品の生産・販売体制を構築。お客様に安心して利用いただける高品質な商品を提案・提供できる企業を目指し、事業展開を図っている。

所在地 鳥取県鳥取市国府町三代寺774

電話/FAX 0857-21-1120/0857-21-3667

URL

代表者 代表取締役 山口 幸雄

設立 2004年

資本金 3,000万円

従業員数 7人



### 梨生産者から求められる安全・安心な果実袋を提供

従来の果実袋は梨が大きくなったときに小袋の袋口の糊が梨の表面に張りつくことがあり、病原菌の繁殖や表面の皮が剥がれるなど品質低下の原因となって生産者を悩ませていた。これを解消するため同社は糊メーカーと連携し、「糊がついている面と面以外は接着しない果実に無害な糊」を開発。この糊を使用して、カビから守り水捌けをよくする工夫を行った。競合商品に比べ品質面で優れた同社のオリジナル小袋は、梨生産者から安全で品質の良い梨生産への期待が寄せられている。



梨生産者の悩みを解決した果実袋

### 自動糊付加工機の導入と継続的な改善提案の奨励

オリジナル小袋の増産体制を構築するため、袋に糊づけする際に、開発した糊の性能を維持できる最適な乾燥時間・温度を可能とした自動糊付加工機を導入。品質向上と、一日の作業時間短縮による生産性の向上を図った。また、従業員から「作業工程内での作業内容の見直し」、「機械・設備をフル活動させるための段取りの見直し」に関する具体的な改善提案を奨励。多台持ちで作業を行うことができる生産体制を構築するなど、継続的な工程改善に取り組むことで更なるコストダウンを図っている。



自動糊付加工機を導入して生産性を向上

### 高い技術力と産学官連携により梨生産者のニーズに柔軟に対応

梨の収穫・選果時期には取引先のある全国の選果場や梨生産者宅へ足を運び、品質・出荷量・栽培に関する生の声を聞いている。JA全農鳥取で30年間果実袋の製造に携わった知識・技術と、鳥取県園芸試験場・鳥取大学・政府系の果実研究所との連携によって、生産者のニーズに柔軟に対応した果実袋を提供している。また、研究機関と連携して、美しく・美味しい梨の研究開発を行っており、農林水産省の委託研究事業「果実輸出における害虫付着果および食入果の流通阻止技術の開発」にも参画した。



取引先を訪問して生の声を収集